



## 自閉症の教育の改善(1)「今日からできる」

### 子供への働きかけは、正面から個別的去行いましょう

STEP  
1

自閉症の障害特性の一つには、他者と社会的な関わりを築くことの困難さがあります。そのため、まず教師との関わり方を身に付けることが基本です。

自閉症のある児童・生徒は、一度にたくさんの情報が入ると、どこを見るのか、誰の話を書くのか分からなくなってしまうことがあります。学習態勢をつくっていく上では、授業においてはリーダー役の教師に注目できるような支援を行うとともに、それでも難しい場合、個別的去支援を行う必要があるでしょう。個別的去働きかけには、子供の正面から行っていくことが基本となります。



STEP  
2

### 視覚優位性を生かしましょう

自閉症の児童・生徒の多くは、言葉を聞いて考える力より、目で見えて考える力の方が強いと言われています（視覚優位）。

また、全体像を見るのではなく、細かい部分に注目して見ていることがあります。

デジタルカメラを活用して、まずは「場所カード」作りから始めてきましょう。例えば光沢のあるもの、厚みのあるものに興味・関心のある児童・生徒も多いので、ラミネート加工をすると最初の興味を上手に引き付けることができます。



STEP  
3

### 具体的な指示を意識しましょう

「ちゃんと」「しっかり」「きれいに」「じょうずに」「もうちょっと」。こうした言葉の多くは正しくは伝わりません。何がどうなる、何をどうする状態を求めているのかを具体的に伝えることが大切です。

伝えることを具体的に明確にしていくために、視覚優位性を生かして言葉による指示と合わせて、身振りや写真カードなどを補助的に使うことも有効です。

また、否定的な言葉や言い方に、激しく反応する児童・生徒も多くいます。

「〇〇しないでください」と言うところを、「△△してください」のように言い換えていくことも工夫の一つです。



STEP  
4

### 子供を上手に褒めましょう

自閉症の障害特性である対人関係の障害の一つに、例えば相手の表情から相手の意思を読み取れないことがあります。教師の微笑み＝賞賛、として伝わりません。

活動が正しく行えたら、その都度確実に褒め、評価を返していくとよいでしょう。このとき、さらっと「〇（まる）」「よくできたね」などと褒めるようにしましょう。一人でできたときは多少オーバーに褒めるなど、褒め方もいくつかのバリエーションを用意すると効果的です。



自閉症の障害特性に応じて、教室ではどのような工夫、配慮をすることができるでしょうか？ 最初のステップとして、今日から始められることをまとめてみました。できるところから取り組んでみてください。

## 言葉掛けの音量を、児童・生徒の状態に応じて抑えましょう

### STEP 5

自閉症の児童・生徒は、音に対して過敏な傾向を示すことが多くあります。大音量では、必要な情報が伝わらなかったり、苦痛を感じたり、程度によっては、その場にいらなかったり、激しく興奮してしまうことにつながりかねません。

こうした状況では、教師の支援は子供に伝わっていきません。音量には十分な配慮が必要です。教師一人一人が心がければ教室は少しずつ静かになり、より子供が落ち着いて、安心して過ごすことのできる空間へと変わっていきます。



## 言葉掛けをシンプルにしていきましょう

### STEP 6

自閉症の児童・生徒は、コミュニケーションの道具としての言葉の発達がゆっくりです。成功体験を基に、ゆっくりと言葉の使い方を身に付けることができるようにする配慮が必要です。

そのためには、次々と言葉掛けをするような状況を避け、確実に児童・生徒に伝わる言い方や、児童・生徒が実行できるような言葉掛けを精選していきましょう。また、教師同士の会話が児童・生徒にとって混乱の元にならないよう心がけることも大切です。



## 活動のきっかけにできるものを増やしましょう

### STEP 7

言葉掛けしないと動けない、受け身的な児童・生徒もいます。いつ、どのようにして動くのかを自分で判断できるように、動くきっかけとなる「もの」を増やしていくことが有効です。手軽に活用できそうな「もの」には次のような例があります。

- ・ 物の配置・・・例えばこのように机をレイアウトした時はこの活動、というように決める。
- ・ キッチンタイマー・・・活動の終わりを知らせる。
- ・ アラーム時計・・・活動の始まりを知らせる。最近では視覚的に時間の残量を示す時計も市販されています。



## 教室をシンプルにしましょう

### STEP 8

自閉症の児童・生徒の多くは、たくさんの刺激の中から必要な情報を抜き出して読み取ることが苦手です。したがって、生活に必要な情報を得ている掲示以外は、基本的に不要です。

教室内の壁面装飾も、時として注意の妨げになりますので、再点検してみてください。雑然とした教室環境は、自閉症の子供にとって、それらを媒介とした不適切な遊び、行動になりかねません。教室に置くものは、「毎日使うもの」に絞り、それも場所を決めて整理して収納しておくことよいでしょう。

